

## 伊豆分場の展示室夜間開放

8月10～12日の3日間、「県民の日」のイベントとして分場の展示室を夜間開放しました。今年は、恒例のタッチプールに夜に寝る習性のあるベラや、水中を泳ぐメリベウミウシなど約50種類以上の生物を展示しました(写真1)。また、ガンガゼやハオコゼ、ラッパウニなどの危険生物の水槽・パネル展示や伊豆の海をテーマにしたクイズを行い、来場記念として、アワビ稚貝の貝殻をストラップに加工して提供しました(写真2)。種苗生産したアワビ稚貝の貝殻は緑色をしていることから来場者からは「とてもきれい」、「記念になる」、「作り方を知りたい」といった声が聞かれました。

タッチプールは子供達に大人気で、男の子も女の子も海藻に隠れているベラやタツノオトシゴを探したり、トラフナマコを握ったりするなど時間を忘れて海の生物との触れ合いを楽しんでいました。また、クイズも人気があり、展示室内のどこかに隠れている答えを懸命に探していました。



写真1 タッチプールで磯の生物と触れ合う子どもたち



写真2 アワビ稚貝で作ったストラップ

来場者に展示室夜間開放についてのアンケート調査を行い、来場した35組のうち34組の方から回答を頂きました。「どこから来ましたか?」の設問では、地元からの回答が22組と最も多く、その他県内は5組、県外は7組でした(表1)。平成22年度のアンケート調査では県外からの来場が39組\*だったので、県外来場者が大幅に減少したことになります。「夜間開放を何で知りましたか?」の設問では、口こみで知った方が12組と最も多く、民宿などに配布したポスターやちらしで知った方が7組、新聞やテレビで知った方が7組でした(表2)。また、「興味を持った内容は?」については、タッチプールに興味を持った方が18組と最も多く、伊豆の海の水槽展示が12組、研究の紹介が10

組と続きました（表3）。

展示室夜間開放は、帰省客や観光客にとって平日の昼間では来場しにくい展示室を、お盆時期の夜間に「県民の日」のイベントとして開放することで来場しやすくし、伊豆地域の漁業や生物、伊豆分場の行なう研究等について理解を深めてもらうため、平成18年度から実施しています。

開催初年度にあたる18年度の来場者数は19組61人でしたが、平成19年度からは、ウミホタルの発光実験や、磯の生物を集めたタッチプールなどの特別展示を実施して来場者数も増えています。

本年度は昨年度に比べ、特に県外からの来場者が減ってしまいましたが、口こみで夜間開放を知った方やリピーター（35組中11組）の方が増えるなど、地域の恒例イベントとして定着している感があります。アンケート調査でも、「地元に住んでいても海のことをあまり知らなかった」、「勉強になった」、「とても楽しかったので来年も来場したい」との声が聞かれました。

本年3月11日に東日本大震災が発生し、その余波でこの夏に伊豆を訪れた観光客は大幅に減少しています。伊豆分場では伊豆の海の魅力を知っていただき、地域の活性化にも貢献できるように、来年も楽しい「県民の日」事業を企画したいと思います。

表1 どこから来ましたか？

地元(下田市、河津町)	22組
その他県内	5組
県外	7組

表2 夜間開放を何で知りましたか？(複数回答有)

口こみ	12組
ポスター・ちらし	7組
新聞・テレビ	7組
県民だより	4組
ホームページ・その他	6組

表3 興味を持った内容は？(複数回答有)

タッチプール	18組
伊豆の海の水槽展示	12組
研究の紹介	10組
エビ・カニ等の標本展示	8組
その他	5組

(飯沼紀雄)

\* : 伊豆分場の展示室を夜間開放しました。伊豆分場だより第323号